



大分県立竹田高等学校  
同窓会  
第45号

発行所・会長 松島修二  
編集者・委員長 田部修士  
発行所・関東同窓会事務局  
〒245-0016  
横浜市東区泉町 4384-2  
電話 045-803-5677

<http://www.gsocties.jp/kantohaketa/>

## 春の幹事会 協議事項報告



幹事長 井手 得郎  
(昭和41年卒)

東日本大震災から二年が経ちました。復興の音はかすかに聴こえるが、未だ生活の現状復興にはほど遠く、今も全国の皆さんの支援が必要とされています。我が故郷の竹田も昨年の大水害の爪痕も、ここかしこに残っています。全員一丸、力を合わせて故郷の復興を願わずにはいられません。三月十八日には「たきれん」出身者による復興支援のチャリティコンサートが北区王子の北とびあで開かれ、故郷竹田へのエールが



春の定例役員会・幹事会

送られました。関東同窓会からも多くの方々に足を運んでいただきました。

### \* 同窓会の動き

平成二十五年三月十六日、アルカディア市ヶ谷で春の定例役員会・幹事会を開催。役員改選・平成二十四年度決算(概算)、修学旅行支援報告、第二十七回総会・懇親会の準備状況、各委員会報告、その他議題について熱心な討議が繰り広げられた。

**三. 修学旅行研修支援**  
平成二十四年十二月十一日、十二日の両日に渡って恒例の母校修学旅行の企業研修に在京の卒業生十二人の先輩たちが引率協力をした。今年の訪問先企業はTBS・フジテレビ、NHK・警視庁・東京科学技術館・ロケット・ハーゲンダッツ・ave x

**一. 役員改選**  
役員改選については倉本正博副幹事長の退任以外は、全員留任で了解されました。

**二. 平成二十四年度決算報告**  
平成二十四年度の総会収支、維持会費収支の説明があった。本年三月末までの収支実績が確定後、幹事の監査を受け総会で承認を得ることの報告があり満場一致で承認されました。

などだった。  
研修を終えて、「わずかなりとも社会について知り、大いに刺激を受けることができた。この体験を今後の高校生活や進路決定の際にぜひ生かしていきたいと思っております。私たちのために時間を割いていただいた同窓会の皆様へ、温かさを肌で感じることができました。今後も百十五年の歴史と伝統を持つ竹田高校生の名に恥じぬよう勉強や部活動に精一杯努力し、精進していきます」と感謝の便りも頂いた。

**四. 第二十七回総会・懇親会開催**  
総会・懇親会は同窓会活動の最も大きな事業であるとともに一年間事務局が準備を積み重ねてきた一大イベントである。役員・当番幹事の総力で万全を期します。今年の総会は六月十五日(出)、昨年に続き東京プリンスホテルのプロビデンスホテルで開催が決定しました。テノール声楽家、紀野洋孝さんらのエンターテインメントをお楽しみください。また、だんご汁などの郷土料理もご用意いたします。なお、浜松町駅からのシャトルバスも運行いたします。

**五. 会員の維持・拡大**  
平成二十四年九月三十日現

在、維持会員数四五八八、本年度は二十七人増だった。今後の同窓会活動を充実させていくためにも維持会員の増加は急務であり、特に若手会員の拡充は大きな課題となっております。そのため役員・学年幹事との連携を密にしていきたいです。さらに会員増加に向けた会報「臥牛」の内容充実や有効な活用も検討していきます。

**六. お花見の開催**  
三月三十一日(日)十二時から、寒空にもかかわらず新宿御苑に用正相談役、麻生副会長長初め有志の面々が集い、開花した桜の木の下で手料理に舌鼓を打ちつつ故郷談議に花を咲かせました。

**七. 仲間と語ろう会**  
仲間が集って気軽に故郷を語り合える機会を年四回開きます。  
期日▼四月十六日、七月十六日、十月十五日、一月二十一日(各第三火曜日)

時間▼午後三時から五時  
会場▼三千元  
場所▼J良田町駅そばの小料理屋「和子」(港区芝五丁目一丁目1003) 13453126109  
竹田高校のお友達をお誘いの上、皆さん集まってみませんか。

## 竹田高校修学旅行特集



副会長と旅行一同

「竹高」修学旅行生の  
珍企業案内記

副会長 菅 博敏(前40年生)

12月12日は早朝5時に起床した。ゴルフや仕事ではなく、竹田高校の修学旅行生を西新宿にある「ロッテ樹」の本社までエスコートするためである。ゴルフの時の早起きは少し気分が違ふ。修学旅行の学生総数は約160人程、十数名のグループに分けて希望する企業を見学・研修する訳であるが先生だけでは面倒を見きれないので、首都圏在任のOBがお手伝いをする事になっている。

満員電車を乗り継ぎ「第一ホテル兩國」に到着したのは7時45分、ロビーには松良会長をはじめ6、7人のOBが既に集まっていた。8時を過ぎた頃、藤原校長と担当の本郷先生がお

みえになりお礼のお言葉を頂き暫し談笑、そのうちパラパラと学生達が集まってきた。私の担当は11名で男子ばかりである。自己紹介をした後インターネットで予め調べていた「ロッテ樹」までの行き方を簡単に説明した。JRの「四国」から総武線に乗り換え「初台」で下車、徒歩6分まで目的地到着という計画である。ホテルを出発する時後方から藤原校長の声、「お前達、見失わないようにちゃんと付いていくんだぞ」。冷やかした半分で笑っている校長の顔が想像できる。

「両国駅」に到着したので、SUICAを買うか切符であれば「市ヶ谷」まで買うように指示、子供たちは半々に分かれたようである。ホームに上がり列車が到着、ドアが開いたのはまだ11人が同時に乗車できる余地は全くない。4本やり過ぎしたが、一向に減る傾向にないのが、少し心配ではあったが分散乗車することにした。列車を待っている時面白い出来事が起きた。列車のドアが開いた時、乗客の持っていたバッグの紐がドアの外側に垂れているのを発見した一人の学生が、返りを

キョロキョロ見回したかと思うとヒョイと紐をドアの中に押し込んだのである。乗客はベコッと頭をさげたり、思いがけない出来事に「ありがとう」という言葉が出なかったのかもしれない。学生の素直で優しい行為に思わず笑みがこぼれた。

「市ヶ谷駅」で地下鉄「都営新宿線」に乗り換えた時チョットした事件が発生した。SUICAを所持している学生は連絡通路から直接乗り継ぎができるが、切符を所持している学生は一度JRの改札を出た後、新たに地下鉄の切符を購入して改札を通過しなければならぬ。私の指示が中途半端だったこともあり、切符所持の学生までもが私の後をゾロゾロと付いてきて乗り換え口で全員ブロッカ、学生達は訳が分からずパニック状態、駅員の方が飛び出してきた。その後何が起きたかは証者の皆さんのご想像にお任せします。

そして、「初台駅」でもまたしても事件が起きた。私が改札口で待っていたと学生達が次々と改札口にやってくる。SUICAを上手にタッチして無事に開放される学生、い加減なタッチでブロッカされてくるにも拘わらず改札を強行突破する学生、理由は分からないが切符を所持したまま改札を出てきた学生、その

後一人ずつ駅員の厳しい指導を受けてのは当然の成り行きである。大分にも自動改札機は有ると思うのだが……。

ホテルから所要時間50分と考えていたが、1時間30分を要し約束の時間10分前に目的地「ロッテ樹」の本社に到着、ヤレヤレ！ 珍案内の終了である。学生達に今後の予定を尋ねると明日から「志賀高原スキー場」にスキーに行く計画だという。11人中スキーの経験者は僅か3人、今日のように小事件はあるかもしれない(いやキツトある)が、怪我をすることもなく楽しい思い出を作ってもらいたい、と思った。次回このような機会があれば、もっと上手くやろうと自問しながら駅への道を急いだ。



東京証券取引所のメインボードを背に

## 企業訪問のお礼

このたびの東京への修学旅行での訪問におきましては、ご多忙の中私達のために貴重な時間を割いていただき、本当にありがとうございます。当日は、丁寧なご説明をいただき、ありがとうございます。大変参考になりました。



日本パーカライジング会議室にて

私たちは今回の訪問で、皆様の会社がより身近に感じられるようになりました。また、竹田高校のOBである大先輩の方々のお話を聞くことができ、とても嬉しかったです。私たちが進路を考えていく時期となりましたが、お話を聞いていて自分達の「道」というものは本当に無数にあるのだなと思います。私たちは今回の貴重な訪問を、これから高校生活や進路の達成に向けて生かしていきたいと思っております。今回の訪問にご尽力くださいました関係者の皆様にも、くれぐれもよろしくお伝えくだされば幸いです。

竹田高等学校2年

班長 井野 瑞季

## 竹田高校関東同窓会新役員

平成25年6月改選

役職	氏名	卒業年度
会長	松良 修二	昭和34年
副会長	加藤 興史	昭和33年
	津下 渥子	昭和34年
	麻生 三郎	昭和35年
	菅 博敏	昭和40年
幹事長	井手 得郎	昭和41年
事務局長	菅 紀代己	昭和34年
総務委員長	緒方 義信	昭和38年
企画委員長	栗田 信子	昭和41年
組織委員長	志賀 卓史	昭和52年
広報委員長	田部 修士	昭和42年
監事	坂本 勇	昭和28年
	後藤 猛士	昭和41年

(相談役、顧問を除く)

今年の総会の懇親会には、瀧藤太郎記念日本高等学校声楽コンクール(「たきれん」)出身の若い声楽家の皆さんが出演されます。コンクールは、昭和51年に、会場を閉校音楽堂から文化会館に移して開催されてきましたが、文化会館は昨年の豪雨災害でピアノもろとも土砂に埋もれ、未だ復旧されていません。被災を憂い、文化会館の復旧を強く願う、たきれん、出身の方々を誘った結果、当

繋があれば幸いです。皆様お誘い合わせの上、是非ご出席いただきますよう、役員ならびに当番幹事一同お待ち申し上げます。

「いあいせつ」



同窓会会長  
松良 修二  
(昭34年卒)

番幹事(47、57年卒)の熱意により懇親会への参加が実現する運びとなった次第です。

昨年の豪雨災害の後、関東同窓会も竹田・豊後大野両市にお見舞をし、皆様方からも義捐金も届けられました。報告を受け、まだ時間が掛かるとはありますが、復旧にはまだ時間がかかるとは報告を受けております。今年の懇親会のテーマは、当番幹事の発案により「復興支援」となりました。旧交を温める場に加え、故郷への支援を呼びかける場になればと切に願っております。竹田、豊後大野両市の産品紹介や即売会も当番幹事により計画されており、催かでも郷土の活性化に繋がれば幸いです。

## 第27回 竹田高校関東同窓会 総会と懇親会のご案内

日時▶平成25年6月15日(土曜日)  
場所▶東京プリンスホテル 2階 プロビデンスホール  
東京都港区芝公園3-3-1 TEL.03-3432-1111  
総会▶12時00分～(11時00分から受付)  
懇親会▶12時40分～15時30分  
会費▶8,000円



- ▶JR線・東京モノレール浜松町駅から徒歩10分。
- ▶都営地下鉄三田線御成門駅(A1)から徒歩1分。
- ▶都営浅草線大江戸線大門駅(A6)から徒歩7分。
- ▶都営地下鉄大江戸線赤羽橋駅から徒歩7分。
- ▶地下鉄日比谷線神谷町駅(3番)から徒歩10分。

無料シャトルバス運転しています

(運行ルート)

浜松町駅⇨東京プリンスホテル⇨ザ・プリンスパークタワー東京

今年の同窓会総会・懇親会のテーマは、「私達の故郷竹田市が水害から立ち直るための復興支援」です。

同窓会の当番幹事である昭和五七年卒の私達は、昨年七月の九州北部豪雨により大変大きな被害に見舞われたばかりの竹田市で八月に竹田高校卒業三〇周年の同窓会が開催され、被害状況を目的の当たりしてきました。関東在住の皆さんも被害の際には被害状況を知らず心の痛みを感じておられるかと思えます。故郷に暮らす方たちは、悲しみ、苦しみに耐え元氣な竹田を取り戻すため復興に取り組んでいます。私達も何とか陰ながら応援できることはないかと考えていました。

皆さんは、「瀧藤太郎記念日本高等学校声楽コンクール」

という声楽家の登竜門である全国大会が、竹田市文化会館で毎年開催されていることをご存知でしょうか。このコンクールに平成一八年に優勝した紀野洋孝さんが、竹田市文化会館の被害を知り、「音楽の方で竹田に何かできないか。せめてピアノの購入資金のお手伝い」とコンクール出身者の方々とチャリティコンサートを開催しています。紀野さんは佐賀県出身で大分県立芸術緑丘高等学校を卒業され、現在、東京藝術大学大学院に通われています。竹田出身者以上に竹田を愛していただいている紀野さんに、是非とも今回の懇親会で復興支援チャリティコンサートを、とお願

いした次第です。また、被害の状況や復興の経過、懐かしい現在の竹田高校や通学路などのスライド上映も予定しています。更に竹田の特産品の販売や通販の紹介も計画していますので、水害から立ち直る故郷のため竹田高校の卒業生として、今、私達にできる一歩にご協力いただけますよう、是非ともご参加ください。私達当番幹事も、皆さんに懐かしい友とのひと時をお過ごしただけよう、精一杯頑張りますのでよろしくお願いたします。

### ▼当番幹事

昭和四十七年卒、五十七年卒

# クラス会・同期会

## 平成24年度 竹田会総会

田部 修士(前42年卒)

平成24年度竹田会総会・懇親会は11月9日、私学会館アルカディア市ヶ谷において開催された。午後6時、志生野アウンサリの開会宣言に続き、全員が起立し物故者への黙とうを捧げた。

まず里見会長が「今年には多彩なゲスト(塩屋俊監督、歌手・千花有黄さん、東大・中井教授)に多数ご出席いただき、竹田から11名、またベトナムから参加された方もおられ、皆様に元気を貰っています。ところで、竹田市は7月12日未明に集中豪雨が発生した大水害の復旧作業に当たられている竹田市の関係者の方々のご苦勞に敬意を表します。」と挨拶、併せて、「次の会長を丸紅の辻さんをお願いしたい。」旨の報告があり、辻さんの紹介をされた。

続いて来賓として、首藤市長が挨拶された。「竹田市は過去5回の大水害に見舞われている。ライフラインは早く復旧できたが、まだ4000箇所の復旧が残っている。」

「災者を受けても竹田の歴史、文化は残っている。可能性を残してくれた先人の後を繋いで行きたい。本日は塩屋俊映画監督も特別にご参加いただいているが、オペラや舞台に竹田のキリシタンの歴史を表現され、新たな繋がりを感じることが出来て喜んでいます。」と。

続いて、藤原竹田高校校長、竹田高校同窓会長、後藤廣二さん、内川元市議会議長、菅前親光協会会長、姫野青年商工会議所会長、原田竹枝PTA会長はじめ竹田市からの来賓の紹介があった。

25年竹田高校卒の安東和彦さんが「前に応用昆虫学者・故中川久友を紹介しましたが、今日もし、もう一人故郷の技術系第一人者として、現在も全国の大学ポーター部で歌われている。春は春は、を作词作曲した御手洗文雄を紹介いたします。詳しくは臥牛で紹介しておりますのでご覧下さい。」と挨拶され、その後安東さん、首藤市長も壇上にお誘いして有志10名ほどが、即席で練習したという下手なポーター部の歌を大合唱し、乾杯に移った。

しばし歓談の後、DVDにて竹田市の大水害、今年のイベント。城下町400年記念祭の紹介がされ、続いてゲストの東

京大学大学院・中井祐教授より竹田における景観形成活動について説明があり、「竹田との縁は、一時母親が竹田高に在籍し、竹田の歌を愛しています。」と報告があった。

続いて、竹田市から提供のあった品々や、塩屋監督より頂いた映画DVDのくじ引きにも興奮冷めやらぬ中、芸大出身の紀野洋孝さんと坂井靖良さんが紹介され、坂井さんのピアノ伴奏で紀野さんが「荒城の月」を熱唱、一同テノールに酔いしれた。紀野さんは来年3月に三鷹にて、竹田市の復旧支援のチャリティコンサートを予定されているとの報告があり、盛大な拍手が送られた。

最後は、恒例となっている高野さんのピアノ演奏にあわせて「荒城の月」。美しき竹田の歌。を全員で合唱した。会場は大いに盛り上がり、興奮冷めやらぬ盛会の中、竹田会は終了した。



本田博教(昭40年卒)

## 竹田高校 関東二六会大会

竹田高校二六会会長  
阿南 惟正(前26年卒)

平成二十四年十月十二日、関東二六会の例会が開催された。この会は、東京都をはじめ、その近郊に在住する会員で構成され、毎年一回、集まって旧交を温める事が恒例となっている。

一昨年は六月に横浜で、昨年は十月に新宿で行われたが、今年には高輪の関東東関が会場であった。関東東関は、建物は格調高く、庭園も有名である。約十年前も此所で開催した事があるが、その時は激しい雨に見舞われた。今回は、幸いすばらしい天気に乗まれ、十分に庭園の美も楽しむ事ができた。

今回の幹事は、古良秋一君と福生茂子さんと、二人の努力のおかげで、二十八名出席、和気あいあいの雰囲気の中で、懇親を深める事ができた。特に今回は、前会長の故高山茂美君の奥さんが特別出席、地元からは水鏡勝司君、宮崎寛一郎君、森英子さんが参加してくれた。永瀬君、宮崎君は、昨年四月に竹田で行った傘寿同期会の世話役であり、森さんは、毎回、得意の写真を持って、皆に配って

くれている。三人とも早朝に自宅を出て、大分空港始発の飛行機で駆けつけた。又、仙台から戸上昭君が参加した。

四月の全国大会は、全国から六十二名が集まり、久住山荘での総会は大いに盛り上がり、翌日は母校を訪ね、その後岡城に登った。快晴の下、満開の桜を賞で、最近整備された西の丸を散策、十分に青春の頃を偲ぶことができた。

今回は、その時の話も含めて、話題はつきず、三時間近く、十分に楽しむ事ができた。幹事をつとめる人達には、手数をかけているが、当分元気な限り、来年も会う事を約して散会した。竹田高校に在学時代、培った友情の絆は、何時までも絶えることなく、持ち続けたいものである。



# 竹高42年子丑会 新年会

桑島 輝茂(前42年卒)  
三元企画委員長



寒中見舞い申し上げます。関東同窓会の皆さんお元気ですか！ 早いもので2013年も一ヶ月が過ぎようとしておりますが皆様様々ご活躍のこと存じます。

1月26日(土)、三重町の「若竹」(オーナー同級生の高倉一義氏)で和田民子さんの退職祝い兼子丑会(竹高42年卒のゴルフ仲間中心の集まり)新年会を開催しました。参加者は10名でしたが、キレイどころ4名参加でとても盛り上がり、楽しいひと時でした。やはり同級生はとも蒸晴らしいです。

# 竹田市支援コンサート

大分県代表として全日本高等学校音楽コンクール。たきれん。出場する為、高校2年生の秋、初めて竹田を訪れました。「たきれんは凄いいコンクール」としか知らず、さらに数回しか舞台に立つたことがない僕は何

人々の温かさが身に染みるコンサートだからです。竹田市が「たきれん」という大きな財産を毎年全国から集まる出場者に感じさせ、さらに各地に帰って出場者が竹田の話をしていること、そして多くの出場者に。た

きれん。が自分の原点として位置づけられていることを本当にうれしく思います。現在はこのコンクールで出会ったメンバーで龍廉太郎の音楽を多くの方に聴いていただくために演奏活動をしています。昨年7月の九州北部豪雨を

紅菜、町で流れているメロディ、美味しい食事、温かい人々、文化会館の匂い、ピンとした空気、水が流れる音、鳥の声：すべてが非常に印象深く残っています。

## プロフィール

### 紀野洋孝 Hiroataka KINO テノール

- ・大分県佐賀関町出身
- ・大分県立芸術緑丘高等学校音楽科声楽専攻卒業
- ・東京藝術大学卒業
- ・第29回九州高等学校音楽コンクール 銀賞
- ・第59回龍廉太郎記念全日本高等学校音楽コンクール 第3位
- ・翌年、第80回同コンクールにおいて第1位
- ・第3回東京国際声楽コンクール大学生部門 第4位
- ・佐野成宏若手育成プロジェクト 特待生
- ・今春より同大学、大学院に進学



また、今回のコンサートをきっかけに多くの竹田出身の方々や竹田に携わる皆様に出会うきっかけとなりました。皆さんの活き活きとしたパワーに負けることの無いよう、僕は音楽の力で龍廉太郎と竹田を多くの方々に伝えていける、そんな一人でありたいと思っています。

紀野 洋孝

# 住みたい田舎 ランキング



宝島社発行の月刊誌「田舎暮らしの本」2月号の特集企画で我が竹田市が6位にランクされた。尚、豊後高田が堂々の1位、宇佐市が4位と全国94の自治体を対象とするアンケート調査で、大分県内より3市が選ばれました。

アンケートは、自然環境、移住者歓迎度、移住者支援制度、子育て、医療介護、日常生活、交通の利便性の7項目を各10点満点で評価してランク付けがされた。竹田市では、名古屋から萩町に移住されてきて、ニナン・ナンナを営まれている岩川真さん・真理子さんご夫妻がおられます。一度、ご自慢のイタリアンを食しては如何でしょうか。

田部 修士(前42年卒)

## 特別寄稿

## 広瀬武夫の足跡を辿る・

## 日露史探訪ツアー

日露文化センター 川村秀

長年の夢であった広瀬武夫の史跡をたどるサンクト・ペテルブルグ訪問ツアーが昨年10月、竹田市役所の池永徹室長、広瀬神社の鈴木啓子さん他、同じ志の方々の参加を得て実現しました。

11日夜「日本の秋」文化フェスティバルのオープニングを兼ねたナターリア・マクシモワ團長の「荒城の月」と日本語で題された個展には昨年春、竹田市に招かれて描かれた絵画を中心に展示され、下田市代表团と一緒に「荒城の月」を合唱しました。

滞在中に広瀬武夫が住んだ家、恋人アリアズナの旧居、それぞれ数か所、旧日本公使館や、ロジエストウエンスキー提督が1909年元旦(※日露露艦)に急死するまで住んだ家など、当時のまま残っており感動しました。首藤勝次・竹田市長の親書も同市長、ロ日協会会長に届けられ、今後の両市の交流は新しい段階に入ります。

今年も10月に同様のツアーが計画されており。

## 国際人・廣瀬武夫と日露ローカル外交

市長公室長 津本 徹(副50年卒)

## 「櫻鳴フオーラム」が授けてくれた力

平成22年度に竹田市で国際人・廣瀬武夫をテーマにした「櫻鳴フオーラム in 竹田」を開催しました。ロシアに滞在し、ロシア人と親交を深めた廣瀬武夫に学びながら、フオーラムを機にロシアとの人脈がその後の竹田市ローカル外交としての日露交流に活かされています。

## サンクトペテルブルグと「荒城の月」

画家のマクシモワ画伯も日露文化センター・川村秀先生の

人脈による親日本の一人で、廣瀬武夫が駐在したサンクトペテルブルグの露日協会に所属し、日本文化を広める交流活動に取り組まれています。毎年日本に長期滞在され、文化や風景を描き、サンクトペテルブルグで開催される日本文化フェスティバルで展覧会を開催しています。昨年春には、川村秀先生

の導きにより初めて竹田市を訪

れ、岡城桜祭りを含む2週間の滞在期間中に描かれた作品の展覧会が10月にサンクトペテルブルグで開催されました。今回の主題は「荒城の月」で、岡城跡の風景を中心に、岡藩主おたまたや公園、久住山など、竹田市の風景作品10点が展示されました。開会セレモニーでは、竹田市の紹介と挨拶の機会を得て、展覧会タイトル「荒城の月」にちなんで、名曲「荒城の月」が誕生した際、サンクトペテルブ



運洋艦オーロラ号(ネバ川)

「荒城の月」(マクシモワ画伯)



ルグ滞在中の廣瀬武夫の下にドイツ留学中の瀧原太郎から送られてきた「荒城の月」の曲譜が珍貴を得たエピソードや、日本人参加者で「荒城の月」の歌を披露し、竹田市との文化のつながりを共有することができました。

サンクトペテルブルグの地で「荒城の月」という展覧会が開かれる由縁は、竹田をふるさととする先人の思いとその人脈。そして歴史に刻まれる格調高い芸術があり、物語が生まれたこと。国境を越えて心を動かせるものは文化であり友情であることを国際人・廣瀬武夫は教えてくれます。

竹田に残る  
祖母智満子の訓え

大河ドラマで会津藩に残る「什の掟(七か条)」が紹介されました。「ならぬことはならぬものです」と、藩士の子弟に厳格な教育がされたようです。以前「国家の品格」でも紹介された教育関係者の間でも注目されたそうですが、七番目を除き現在教育にも通じる内容で、改めてご覧になっては如何でしょうか。

本題はここからで、会津の七か条より一つ多い八か条の訓えが故郷竹田に残されており、昨年の広瀬武夫顕彰会で古庄幸一さんが改めて取り上げられました。その訓えを生徒貫き国境を越えて触れ合う人々の尊敬を集めたのが私どもの偉大な先人、広瀬武夫です。これを顕彰会だけに留めず、将来を担う子供達にも心の糧として永く残していきたいと思います。と祈念します。

編者委員 田部 修士

祖母・智満子から  
広瀬武夫への訓え

## 八か条

- 一つ、他人の悪口を言つてはなりません
- 一つ、嘘をついてはなりません
- 一つ、弱いものをいじめてはなりません
- 一つ、愚痴をこぼしてはなりません
- 一つ、人を軽蔑してはなりません
- 一つ、人をねたんではなりません
- 一つ、約束はまらねばなりません
- 一つ、口にしたことは実行しなければなりません

# ふるさと名所紀行

## 清水湯と大横綱大鵬

八幡川横丁は出逢いのスポット

元竹田市立図書館長 本田 耕一

昭和三十一年に竹田小学校グラウンドで二所ノ関一門による相撲興行が行われました。興行の勸進元は竹田町で蒲鉾製造をしていた四国屋の山岡久雄さんでした。グラウンドには特設会場が設けられました。関取の明け荷は竹田急配運送が運び、運転手は山手に住んでいた曾我一郎さんでした。また、力士が使用した風呂は、八幡川の清水湯などの銭湯で

した。この巡業には後に大横綱となる大鵬関も加わっていました。当時十七歳の大鵬関は、二所ノ関部屋に入門

したばかりで四股名は納谷(本名は納谷幸喜)と呼ばれていました。巡業では買物役だったようですが、竹田町の様子が分からず、何処に行っても買物しようかと戸惑っている、曾我さんが察してお店を案内しました。新弟子は兄弟子たちに頼まれた必要な品々を購入すると直ぐに届けねばならず、随分気を遣い疲れる役目でした。やっと買物を済ませた納谷さんは、八幡川の清水湯で疲れを癒し、汗を拭きながら外に出て見ると、入口で曾我さんが待っていました。「関取でもない若い私を湯から

出てくるまで待っていてくれた」と言って、納谷さんは感激しました。この湯上りの出逢いが縁となり納谷さんは、関取に昇進して大鵬と改名してからも、毎年番付を山岡さんと曾我さんに送ってきたそうです。入門して間もない新しい修行時代に竹田で出逢った優しい人情が、忘れられなかったのではないのでしょうか。この佳話に地方紙の竹田タイムスに載り、話題になったようです。

現在、清水湯に入浴することはできませんが、改修保存された大蔵清水湯として市民や観光客に親しまれています。また、「心の灯りを整くコンサート」なども開催されました。隣接する御客屋や愛染堂を訪れる人も多くなり、城下町竹田の「出逢いのスポット」として人気を集めています。経営しているのは志保屋青果店主の後藤眞二さんで、竹田高等学校同窓会会長を務めています。

《参考図書》

2012年12月13日

「二豊の文化」二豊の文化社 1970

「巨人・大鵬・卵焼き 私の履歴書」大鵬幸喜 日本経済新聞社 2001



八幡川横丁。写真左、白壁の建物が大蔵清水湯



本田博教(昭40年卒)

## 川名の由来

田部 修士(昭42年卒)

奥の谷から流れ出る山川には、稲葉川に流れ出るまでの間に7つの名前があり、昭和50年発行の「竹田奇聞」上編の一説に次のような記事があります。

奥の谷稲荷谷から流れ出る又点に御用藍染屋・淵野があったので、藍染川と称したと書かれています。その次が、山川、それから、溝川、といわれ、瀬原太郎資料館の前辺りを、桜川、八幡山の下は、八幡川、と称し、吉野池があった溝口辺りを、吉野川、と云ったそうです。昔も今も同じで、溝に塵芥を流すに往生した御用大工の丹忠藏翁は、

昔よりこは名高き吉野川

花のちりさへ捨てるべからず

と筆太に一首の狂歌を書き、溝の畔に書き付けてあった。

吉野川の次が、慶順川、と云う。御用大工・丹の先祖・丹慶順と云う人が住居していたところから名づけた。

《資料提供は、桑島さん、一部本田先生に補正頂きました》

図書紹介  
田部 修士 昭和42年生

### 「殺意の赤い実」

著者：櫻田 啓

発行：平成25年3月19日

発行所：PHP研究所

定価：650円(税込)

ISBN 9784569679667



櫻田啓さんの最新作。平家伝説をテーマにしたミステリー小説。です。大分の平家山で東京の若いOLが謎の死をとける。特命を受けた若い刑事が東京―能登―大分のスタラブル

平手 肇 昭和35年生  
我々関東在住の増刊会(35年卒)メンバーが同期仲間との連携を深めるために活用しているM L(メーリングリスト)をご紹介します。

### メールで仲間との繋がりを広く、強く

入れておき、それを見たり保存する方法を、このMLで公開しています。

メンバリーの近況報告(病気の状況、訃報など)、飲み会、絵画鑑賞、ゴルフなどの誘い、旅行の案内に加えて大分県人会からの情報などをタイムリーに発信することで有効に活用しています。

また、いろんな催しの思い出としての写真の配布に苦勞されていることと思います。それらの写真を、インターネット上に

女風「戦国風雲児」松平忠直「義経流浪記」など。

### 「大分県謎解き散歩」

発行所：新人物往来社

発行：平成24年6月9日

捜査に飛ぶ。背景に、800年の時空を超えた平家伝説の怨霊が渦巻く、衝撃の結末を...

平家の末裔を自認される櫻田さんの力作です。これまで時代物を書かれてきましたが、初めて取り組まれた現代小説です。櫻田さんの小説一瞥、「青の洞門」「幻のジバンクー大友宗麟の生涯」「旅順に散った海のサムライ―広瀬武夫―」(紙園の

同じ主旨(目的)に賛同したメンバーに対して、情報を発信するとその内容はメンバー全員に届きます。またそのことに返信しても、それは特定の個人に対する返信でなくメンバー全員に届きます。この特性を利用してシステムがML(メーリングリスト)と呼ばれるものです。ホームページとは異なり、賛同した特定のメンバーの間の情報交換です。意識してホームページを覗くのではなく、自分の

2007年に発行された「大分県不思議事典」を再編集されたもので、県内に存在する多くの謎(なしか?)を解明し、おおいの魅力を郷土自慢を再発見していただくための一助となるように、竹田市役所・文化財課の佐伯浩さんをはじめ、県内在住の19名が分担して執筆されています。

メールボックスに情報が入ってきます。ですから、メンバーも特定の範囲に限定した中で賛同を得られた方々の集まりとなります。個別に、電話、手紙やメールで連絡すると面倒ですし、また、連絡抜けが発生します。MLではこのような心配はありませんが、上手く活用することによって仲間との繋がりが広くなり、また強くなったいくと思います。但し、このMLを主旨通りに維持・管理するには複数の名の管理人を置くことをお勧めします。この管理人の役割は、メンバーの追加や情報の投稿の承認などがあります。主旨にそぐわ

### 訃報

慎んでお知らせ申し上げます。心からご冥福をお祈り致します。

#### 物故者御芳名

吉澤 福也 様(昭和37年生) 平成24年7月2日 没  
石原田鶴子 様(昭和14年生) 平成24年10月7日 没  
佐藤 貞子 様(昭和35年生) 平成24年11月21日 没  
久保 文朗 様(昭和9年生) 平成24年12月4日 没  
山辺 博治 様(昭和25年生) 平成25年2月13日 没  
安西 政雄 様(昭和30年生) 平成25年2月25日 没

事務局長へ連絡を頂いた方々を掲載させていただきます。

ない投稿に対して、その投稿の公開を拒絶することができます。管理人が正しく機能すること、メンバーの方々が安心して情報の交換が可能になると思えます。このようなご時勢です。チャレンジして仲間を増やしましょう。

### 編集後記

同窓会の鳥津金五さんから提案がありました。皆さんご存知と思いますが、世の中「サラリーマン川柳」が大流行して毎年本も出版されています。それに習って関東同窓会でも「同窓会川柳」なるコーナーを設けたいと考えています。皆様奮って投稿願います。HPもしくは編集員のメールアドレスに投稿ください。お待ちしています。早速に作品が投稿されましたのでご紹介いたします。

#### 同窓会川柳

初産の 面影みつけ 汗を拭く (昭和40年卒 音 博敏)

同窓会 君はだれかと 見知らぬ人 (昭和40年卒 音 博敏)

また、学年同窓会の記事や海外旅行などの特別寄稿、同窓会員にお伝えしたい情報などを是非原稿を投稿願います。

●連絡先●  
〒103-0027

東京都中央区日本橋1-15-1  
日本パーカライジング  
(広報委員長) 田部 修士 宛  
TEL 03-33278-4350  
FAX 03-33278-4314